



各社、実際に使われる素材・材料や工法によるモデルを用いて、大地震並みの振動での実験を繰り返し強度や耐久性を確認



分譲地の公園のベンチには、災害時に簡単に竈（かまど）に変わる（上）。個人の自宅に加え、集会所などには、備蓄品として飲料水や非常用食料、救急用品、簡易トイレなども



将来世代に継承できる 良質な住まいの提供に

「備えあれば憂いなし」と

高度な省エネ性と耐震性で

2月6日に発生したトルコ・シリア大地震は、死者数が5万人超という大災害となった。復旧への取り組みは始まったが、続く余震に加え各地で発生した地割れが妨げになって、進みにくい状況という。25日に北海道東部で最大震度5弱の強い地震が起きた日本にとっても、対岸の火事ではない。

一方、バリアフリー・省エネ性能のいずれも満たす、将来世代に継承できる良質な住宅は、およそ230万戸にとどまるとみられる。1995年の阪神・淡路大震災やその後の大きな地震でも、多くの人が倒れた家具の下敷きとなって、亡くなった大けがをしたりした。これは住まい自体の耐震性が、基準を十分に満たしていたとしても、激しい揺れによって家具が「凶器」ともなりうることを示している。

東京消防庁の調査では、大きな地震でケガをした人の3割から5割が家具類の転倒や落下によるもの。なるべく部屋に物を置かないようにしたり、タンスや食器棚などは金具などを活用して固定しておくことが大事という指針を示した。地震の揺れは、地盤の固さや柔らかさによって異なる。地盤が柔らかいところでは揺れも大きくなりがち。自治体は、災害に耐えられ、震度や被害の程度、避難場所や避難経路などの情報を、わかりやすく地図上に示した「ハザードマップ」など資料を用意したところもあり、いざという時のためにも入手し保管しておいてはどうだろう。

家族がそれぞれ別な場所にいる場合に備えて、お互いの安全を確認する方法を家族で決めておくのも必須。地震発生直後は電話がつながりにくくなるため、連絡がとれない場合がある。そうした時は、「災害伝言ダイヤル（171）」や、携帯電話会社の「災害用伝言板」などのサービスを利用する。また、集合場所を事前に家族と確認しておくのも有効といえる。

「備えあれば憂いなし」という言葉もある。2011年の東日本大震災から12年、熊本地震からもまもなく7年になる。今、最近の住宅は高度な耐震性能や制震機能を備えつつ、省エネ性が高く快適な仕様となっている。エネルギーに関する住宅のレジリエンス（強靱さ）を高める機器として太陽光発電や蓄電池の普及が進む。また、日照次第で発電量が変るといった、不安定な再生可能エネルギーを補完する新たな設備機器となる家庭用の燃料電池も注目を集めてきた。国も補助金を用意して普及を後押ししている。

技術は日進月歩。住まいの省エネ性能や快適さ、耐震性が気になる部分があるなら、これを機に耐震診断を受けてみるのもいい。国も住宅ローンの減税や補助金、給付金などの有利な制度もある。必要に応じて改修や建て替えを検討してはどうか。



※ 平成30年住宅・土地統計調査（総務省）
※ 建築時期が不明なものは「築年不明」としては統計から除外
※ 「バリアフリーを満たす」とは、住宅・土地統計調査データより、完成のバリアフリー（階段のない室内・2か所以上の手すり・住居内を車いすで移動可能）を満たしている住宅について集計
※ 「省エネを満たす」とは、平成4年省エネルギー基準を達成しているものとし、国交省統計による建築時期別の達成割合をもとに算定
※ 「建築中ほか」とは、「建築中の住宅」及び「一時居住のための住宅（仮設住宅）」

&EARTH *with* WOOD



スタイルがある。主義がある。暮らしが自由になるボーダレスモダン。



I Z M
イズム

お問い合わせは

0120-94-4331 9:00~18:00
(土・日・祝日を除く)

三井ホーム株式会社 本社

〒163-0453 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル53階

憧れを、かたちに。



三井ホーム



三井不動産グループ
MITSUI FUDOSAN GROUP

スペシャルサイトは
こちら



地震への備え、各社技術競う



当然のことだが、地震に強い建物にするには、制震壁や耐力壁をバランス良く配置する必要がある。同時に、こうした備えとともに、災害後の生活を視野に置いた生活継続計画「LCP」への対応やDXを活用した被災状況の把握などの技術も開発されている。大手住宅メーカーの取り組みを紹介しよう。

積水ハウスは、鉄骨構造の戸建住宅向けに、『ダイナミックフレームシステム』を用

意。同システムは、耐力壁とオリジナル制震壁「シーカスフレーム」、およびそれらを同じ位置に重ねて配置する『ハイブリッドシーカス』の組み合わせで構成。制震機能を維持しながらプランの自由度を高める。

ベースのシーカスフレームは特殊なダンパー（粘弾性ダンパー）を「K」型に配置したフレーム。主に①地震動エネルギーを熱エネルギーに変えて吸収②建物の変形を約半分

に低減③繰り返しの地震に効果を発揮し耐久性が高い――の3点が特徴だ。

高強度耐力壁と耐力壁を重ねて配置することで、通常の耐力壁の2・5倍の強度を備える「高性能・重耐力壁」も商品化している。

大和ハウス工業が開発した、地震エネルギーを効果的に吸収するコア技術が「Σ（シグマ）形デバイス」。強さとしなやかさを兼ね備えた独自の断面形状となる。地震

動のエネルギーを同デバイスに集中させることで、柱や梁の損傷を防ぐとともに、揺れ幅も3分の2に軽減（同社従来比）し、建物全体の損傷も最小限に抑えられる。特に、旭化成ホームズは、軽量鉄骨造「ヘーベルハウス」に『ハイパードクロス』、重量鉄骨造住宅「ヘーベルハウスFREX」向けに『SARIE（サイリース）』の2種の制振装置を展開している。このうち、ハイパードクロスは2カ所設置する新開発の耐力壁が「K-break（キユレック）」。これを装備した『ジ

ーヴォエス+（エスプラス）』仕様は、従来仕様と比べ巨大地震時の建物の揺れを、最大で2分の1に抑える。

旭化成ホームズは、軽量鉄骨造「ヘーベルハウス」に『ハイパードクロス』、重量鉄骨造住宅「ヘーベルハウスFREX」向けに『SARIE（サイリース）』の2種の制振装置を展開している。このうち、ハイパードクロスは2カ所設置する新開発の耐力壁が「K-break（キユレック）」。これを装備した『ジ

ーヴォエス+（エスプラス）』仕様は、従来仕様と比べ巨大地震時の建物の揺れを、最大で2分の1に抑える。

旭化成ホームズは、軽量鉄骨造「ヘーベルハウス」に『ハイパードクロス』、重量鉄骨造住宅「ヘーベルハウスFREX」向けに『SARIE（サイリース）』の2種の制振装置を展開している。このうち、ハイパードクロスは2カ所設置する新開発の耐力壁が「K-break（キユレック）」。これを装備した『ジ

は、レーシングタイヤの開発技術に応用した高減衰ゴムを使用。7センチ角で厚さ2ミリのゴム板2枚で構成し、地震などにより建物にかかる運動エネルギーを熱エネルギーに変換することで、衝撃を半減させる。高減衰ゴムは、劣化促進試験では100年相当を実証。引っ張り伸びは通常の2倍で、伸びてもすぐ元の位置に戻る。外部の温度変化などの影響を受けない建物内部に設置するため、常に安定した効果を発揮する。

一つした躯体側から建物を守ろうとする動きに加え、全体としての被害状況の把握や効率的な点検への取り組みも出てきた。旭化成グループは地震発生時の建物の被害状況を即時推定するIoT防災情報システム『LONGLIFE AEDGIS（ロングライフアイジス）』を国立研究開発法人防災科学技術研究所（防災科研）と共同で開発した。さらに、自動プログラム（BOT）を活用して、災害発生時における設備機器復旧方法などの閲覧や、建物の被害状況を把握して、効率的な点検・フォローで顧客の安心につなげる「災害BOT」の運用も開始している。

ミサワが提案している、防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」。制振装置EMジョイントや災害用備蓄収納「蔵」、被災度判定計「ガインネット」などを組み合わせ、日常の「備え」、災害時の「守り」、復旧までの「支え」の3つの観点で、安心な暮らしを推進していく。

制震ダンパーや壁を活用 効果的にエネルギー吸収



壁に設置された制震や耐震用の装置によって、大きな開口部と明いリビングを実現しながら地震への備えを両立（上）。装置自体は、建物が完成すると目に触れなくなるが、長い年月住まいをしっかりと守る（中・下）



で構成する。このオイルダンパーを介して、下部（基礎）と上部（鉄骨梁）とを結合。これにより、地震の揺れがダンパー内に充填されているオイルの圧力によって抵抗が生まれ揺れを低減する。

オイルダンパー方式は、地震のエネルギーを熱に変換するため、ダンパー内の油温が上昇するものの、サイレスの場合には温度上昇に伴う減衰（揺れに対するブレーキ）力がほとんど低下せず、繰り返しの揺れが続いても建物を守り続けることができる。

揺れが激しいほど、減衰力が強まるような設定ともなっており、大地震から中地震、小地震といった、さまざまな揺

は、レーシングタイヤの開発技術に応用した高減衰ゴムを使用。7センチ角で厚さ2ミリのゴム板2枚で構成し、地震などにより建物にかかる運動エネルギーを熱エネルギーに変換することで、衝撃を半減させる。高減衰ゴムは、劣化促進試験では100年相当を実証。引っ張り伸びは通常の2倍で、伸びてもすぐ元の位置に戻る。外部の温度変化などの影響を受けない建物内部に設置するため、常に安定した効果を発揮する。

一つした躯体側から建物を守ろうとする動きに加え、全体としての被害状況の把握や効率的な点検への取り組みも出てきた。旭化成グループは地震発生時の建物の被害状況を即時推定するIoT防災情報システム『LONGLIFE AEDGIS（ロングライフアイジス）』を国立研究開発法人防災科学技術研究所（防災科研）と共同で開発した。さらに、自動プログラム（BOT）を活用して、災害発生時における設備機器復旧方法などの閲覧や、建物の被害状況を把握して、効率的な点検・フォローで顧客の安心につなげる「災害BOT」の運用も開始している。

ミサワが提案している、防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」。制振装置EMジョイントや災害用備蓄収納「蔵」、被災度判定計「ガインネット」などを組み合わせ、日常の「備え」、災害時の「守り」、復旧までの「支え」の3つの観点で、安心な暮らしを推進していく。

MISAWA

防災・減災住宅は、ミサワホーム。

ちょっとした揺れなのに、過剰に反応してしまう。豪雨のニュースに、家や家族が心配になる。

ミサワホームは、災害大国・日本のご家族に、ひとつ上の安全・安心をご提案します。

平常時から災害発生時、発生後まで3段階の防災・減災ソリューション「MISAWA-LCP」。

ふだん快適に暮らせる住まいが、そのとき、避難所としての役割を果たしてくれます。

1st
SAFETY
SOLUTIONS
備えるデザイン

2nd
SAFETY
SOLUTIONS
守るデザイン

3rd
SAFETY
SOLUTIONS
支えるデザイン

MISAWA-LCP

備える▶守る▶支える[防災・減災ソリューション]

MISAWA
Life
Continuity
Performance

先進の防災・減災ソリューションを詳しくご紹介した「MISAWA-LCP」カタログを差し上げます。

HP ホームページ www.misawa.co.jp/catalog/ ハガキ(住所・氏名・年齢・電話番号を明記)
〒163-0833 東京都新宿区西新宿2-4-1 私書箱6111号 ミサワホーム株式会社「LCP」K係

※当社では、お客様の個人情報を、建築・リフォーム工事、不動産取引に関する情報・サービス案内のお届け、訪問、各種プランのご提案、アンケート調査等の実施目的で利用いたします。その他詳細は、www.misawa.co.jp/privacyをご覧ください。

詳しくはWEBで 検索

住まいを通じて生涯のおつきあい

新しい暮らしをデザインします

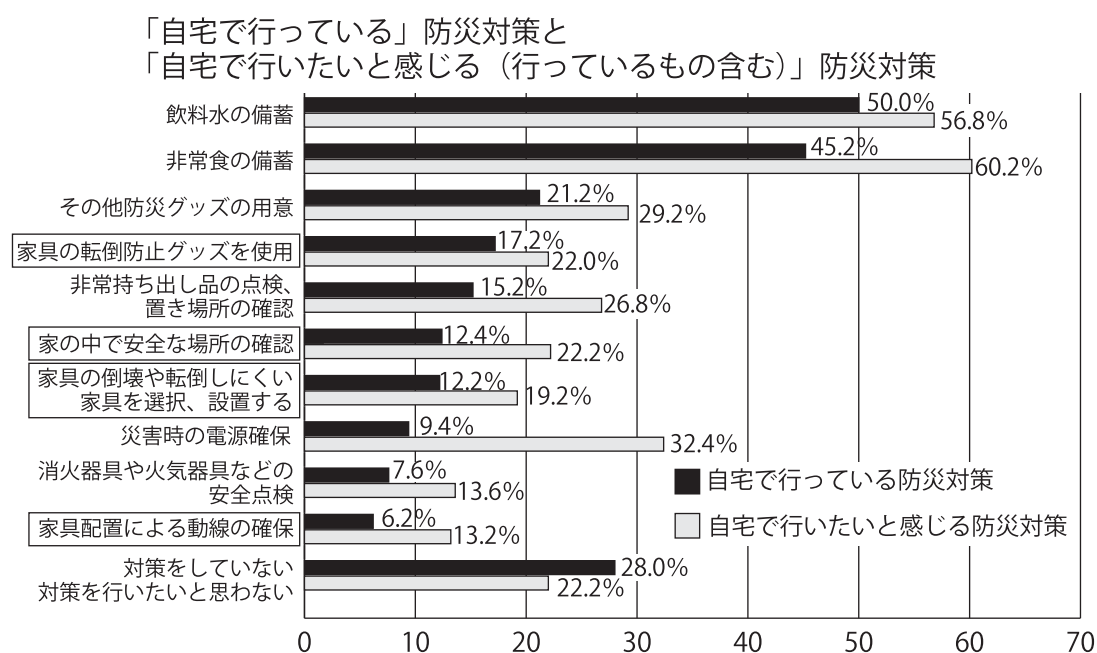
ミサワホーム

価値と快適をデザインします

ミサワリフォーム

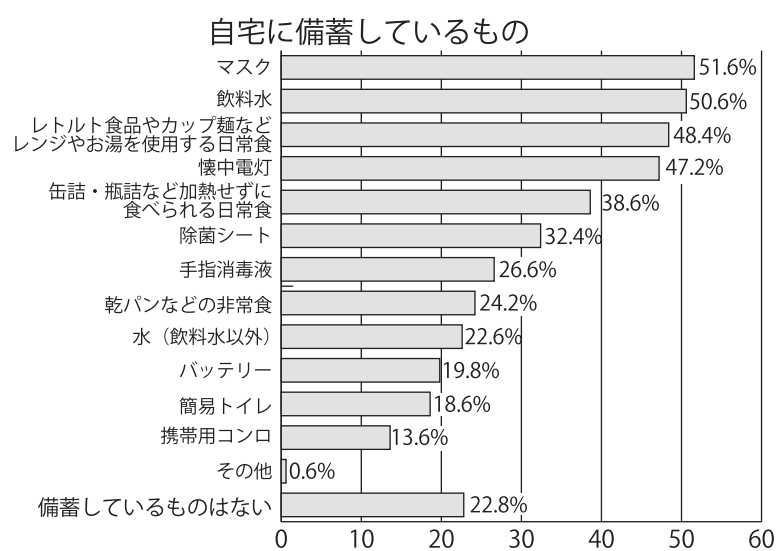
賃貸経営から介護・福祉事業
複合土地活用まで

ミサワ資産活用

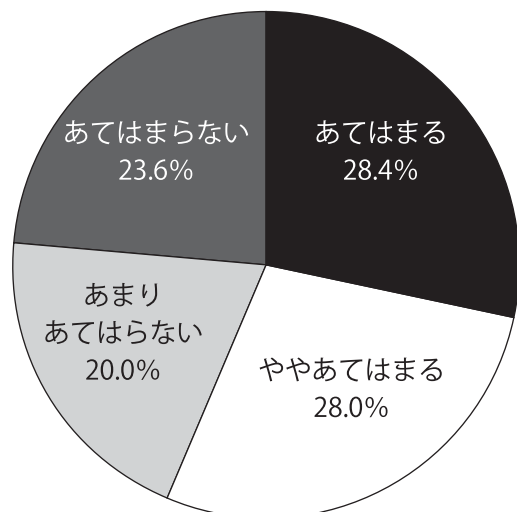


最大の脅威「地震」95%

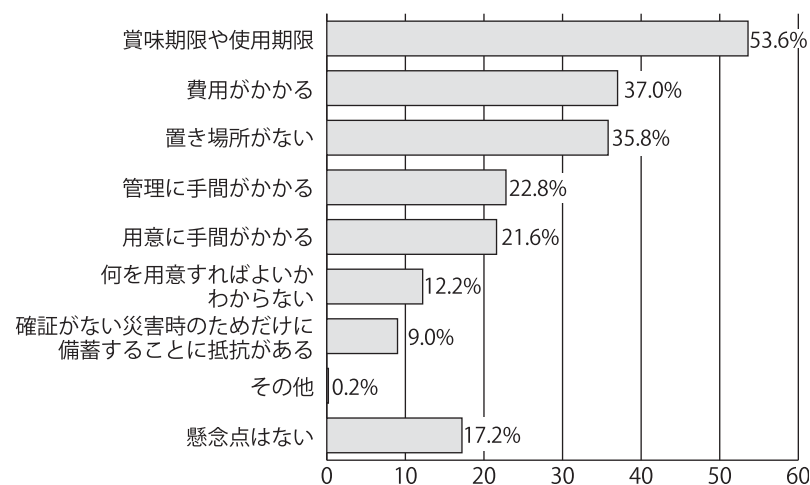
飲料水や非常食 半数の家庭備え



コロナ禍で感染予防グッズの備蓄が増えたか



あなたが自宅で備蓄品の用意を行う際の懸念点



一方で、いずれも自宅での防災対策を「行いたい」方が「行っている」よりも率が高いが、特に乖離が大きかったのが「電力の確保」の回答。32.4%が「行いたい」としながらも、実際に災害時の電力の確保対策を行っている人は9.4%にとどまった。その要因について、3人に1人が「費用がかかる」との答え。これについて同研究所では、高額な蓄電池や発電機を想起しているため、いつ起きるか予測できない「もしも」のためだけの費用と捉えることへの躊躇とみる。

自宅の備蓄品のストックについて、コロナ禍で普段から使用する場面が多い「マスク」「手指消毒液」「除菌シート」は約1ヵ月分が用意されている。反面、期限が決められている食品や日常生活で使用するものが少ない防災備蓄品は、1日～3日分の用意という回答が半数を占めた。

政府の公式見解では、予測されている広域の災害に備え、1週間程度の備蓄を推奨。だが、一般には防災備蓄は最低3日との認識とみられる。

自宅に備蓄を行う際の懸念点は「賞味期限や使用期限」53.6%と半数超え。以下、「費用がかかる」37.0%と「置き場所がない」35.8%が3人に1人となった。限られたスペースの中では「災害のため」と限定するのではなく、いつもの備えで「もしも」の備えにつながる対策が必要とした。

積水ハウスの住生活研が防災調査

懸念は“期限”や置き場所

85%が自然災害に不安感

コロナ禍を経て、半数前後の家庭が飲料水や非常食を防災備蓄。懸念は「賞味期限」や「使用期限」、「置き場所」も。積水ハウスの企業内研究機関である住生活研究所が実施した『自宅における防災に関する調査（2022年）』の結果。同調査は、新型コロナウイルス感染症の流行前後での防災における意識や行動に起こった変化について調査したもの。対象は、全国の20歳～60歳の男女500人。調査期間は2022年7月15日～18日となっている。

それによると、自然災害に「不安を感じる」が85.6%が「不安を感じる」と回答。うち、最も多かったのは「地震」が94.9%。次いで「大雨・洪水」48.6%、「防風台風」44.2%、「火災」42.1%が4割超え（複数回答）だった。気象庁の地震データベースで、最近地震の発生回数が増えていることも要因とみる。

自然災害における被災経験などの有無について聞いたところ、全体の47.8%にあたる239人が「自然災害による停電」と答えた。その際の行動は「自宅で電力が復旧するまで我慢」85.4%、「自宅で懐中電灯やキャンドルを使用」43.5%、「モバイルバッテリーで最低限の電力の使用」15.5%がトップ3。それ以外の回答は、いずれも1割に満たないことから、停電時の行動計画を含めて対策が不十分と指摘した。

自宅で行っている防災対策を聞いたところ「飲料水の備蓄」50.0%、「非常食の備蓄」45.2%と続く。これは、自宅で行いたいと感じる対策でも、それぞれ56.8%、60.2%と高い。

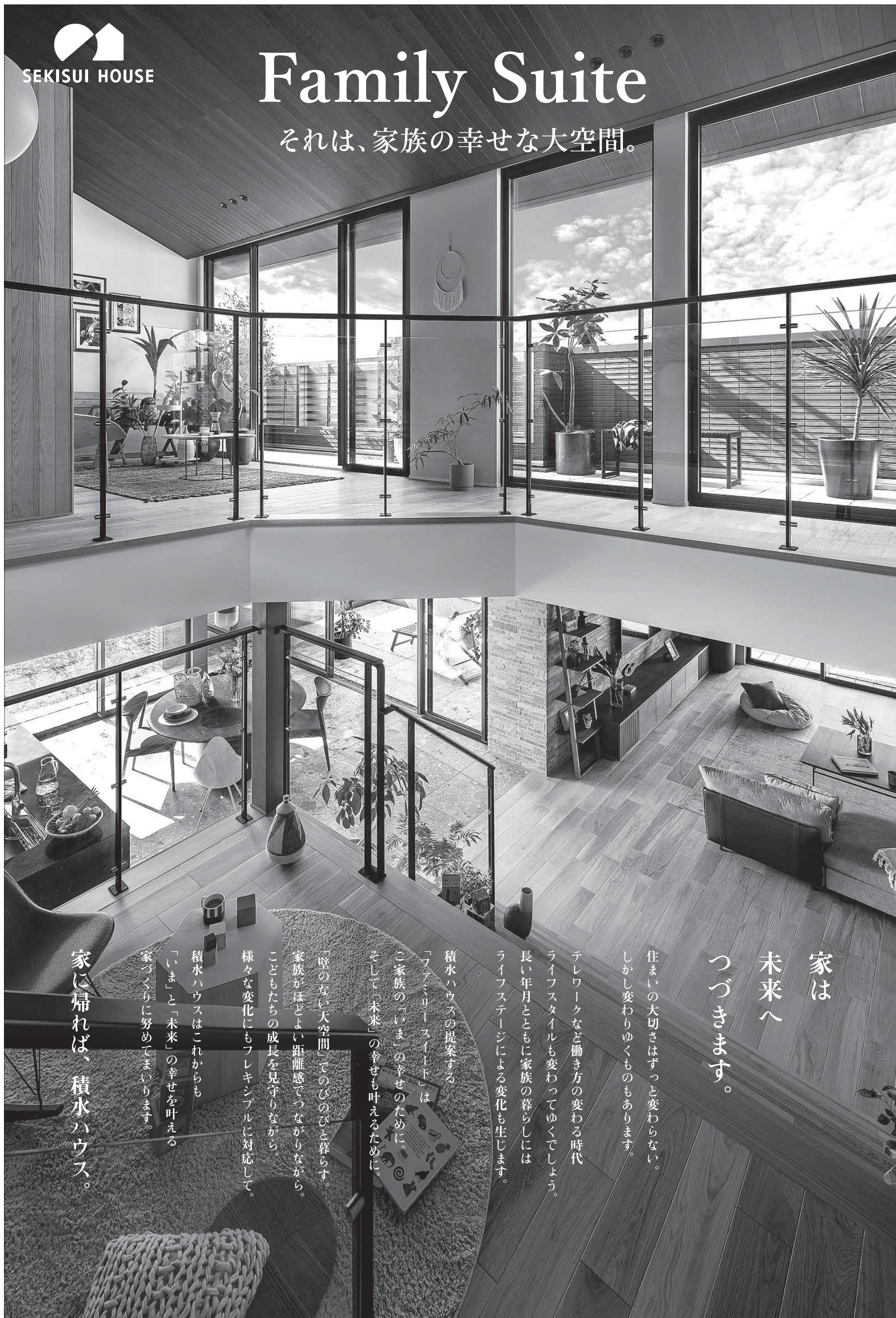
そこで、家庭での備蓄状況について尋ねた。その結果77.2%が何かしらの防災備蓄をしていることがわかった。また、コロナ禍で変化した防災意識では「マスクや除菌シートなどの感染予防グッズの備蓄が増えた」との回答が56.4%と過半数を占めた。

一方で、いずれも自宅での防災対策を「行いたい」方が「行っている」よりも率が高いが、特に乖離が大きかったのが「電力の確保」の回答。32.4%が「行いたい」としながらも、実際に災害時の電力の確保対策を行っている人は9.4%にとどまった。その要因について、3人に1人が「費用がかかる」との答え。これについて同研究所では、高額な蓄電池や発電機を想起しているため、いつ起きるか予測できない「もしも」のためだけの費用と捉えることへの躊躇とみる。



Family Suite

それは、家族の幸せな大空間。



家は

未来へ

つづきます。

住まいの大切さはずっと変わらない。
しかし変わりゆくものもあります。

テレワークなど働き方の変わる時代
ライフスタイルも変わってゆくでしょう。
長い年月とともに家族の暮らしには
ライフステージによる変化も生じます。

積水ハウスの提案する

「ファミリースイート」は
ご家族の「いま」の幸せのために。
そして「未来」の幸せも叶えるために。

「壁のない大空間」でのびのびと暮らす。
家族がほどよい距離感でつながりながら。
こどもたちの成長を見守りながら。
様々な変化にもフレキシブルに対応して。

積水ハウスはこれからも
「いま」と「未来」の幸せを叶える
家づくりに努めてまいります。

家に帰れば、積水ハウス。



災害に強く安全で快適な住まい提供

旭化成ホームズ ロングライフファイブジス



観測データや地盤DBで建物被害状況を即時推定

旭化成ホームズなど旭化成グループと、国立研究開発法人防災科学技術研究所（防災科研）は、地震発生時の建物の被害状況を即時推定するIoT防災情報システム「IoT LIFELIFE AEDGIS（ロングライフファイブジス）」を共同で、2022年度からの運用を開始した。

ロングライフファイブジスとは、地震発生後の建物被害レベルや液化の発生状況を、邸別に推定するシステム。一定数の戸建住宅「ヘーベルハウス」

と集合住宅「ヘーベルメゾン」に設置した、地震計の地震動観測データ、防災科研の知見を生かして整備した地盤データベース、および地震動伝達に関する高速演算手法を組み合わせた。

地震発生後10分から2時間程度で状況が把握できるようになる。これまでに、システムの有効性を検証しながら、運用エリア拡大の準備を進めてきた。具体的には、システム構築の第1フェーズとして、23区内に建つ旭化成ホームズ供給の戸建住宅「ヘーベルハウス」166棟に対する地震計設置が完了。7月からシステムの試験運用をスタートさせ、21年度まで実施。さらに、22年度からは第2フェーズとして、旭化成ホームズがヘーベルハウスを展開する全エリア（21都府県）での運用を目指した取り組みが進む。

大地震発生時は、どこでどのような被害が発生しているかを、正確かつ

迅速に把握する必要がある。これは、その後の応急・復旧・復興のスピードにも影響する。同システムの運用によって、災害時のサポート体制の強化が期待できる。

旭化成ホームズは、これまでも戸建住宅全棟への制震構造の標準採用など、業界に先駆けた取り組みを行っており、今回もその一環。2019年には「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞2019）」で、最優秀レジリエンス賞を受賞している。

防災科研は、強震観測網（K-NET、KIK-net）の観測データに基づき、大地震のような広域災害時に、被害全体をリアルタイムに推定し状況を把握する地震被害推定システム（IRIS）を構築。今後、旭化成グループと防災科研は、その予測結果を取り込み、システムの高度化を進めていく。

また、現在両社は地震発生後の個別建物被害レベルの推定に向けた研究に加え、防災におけるSNS情報の活用に向けた共同研究を進めており、引き続き地震災害時の迅速な復旧・復旧支援の強化に取り組んでいくとしている。

住友林業ビッグフレームレジリエンス



高い耐震性と快適性両立 日本の気候風土最適な家

住友林業のビッグフレーム（BF）構法の戸建住宅「BIG FRAME RESILIENCE（ビッグフレームレジリエンス）」は、耐震性の高い構造に、さまざまな災害対応設備を搭載することで、防災力を高めた住まい。日本の気候風土に最適な木造住宅を独自のテクノロジーで革新することで、格段に強度を高めるとともに、非常時の安心も平常時の快適性も実現した木

の家となっている。BF構法は、同社が開発した日本初の梁勝ちラーメン構造。主要構造材に、一般的な105ミリ角の柱の5倍もある「ビッグコラム（大断面集成材）」を用いるとともに、接合部を金属同士で緊結する「メタルタッチ接合」を採用し、構造躯体を強固に一体化する。

3階建ての実大モデル実験で、東日本大震災や阪神・淡路大震災級の震

度7クラスの地震波や強い余震波を、繰り返し受けたことで、構造躯体の耐震性が維持され続けることを確認している。

住宅金融支援機構の「省令準耐火構造」基準に標準仕様で対応。壁や天井の内部を区分する「ファイヤーストップ構造」により、上下階間や各部屋間の火災拡大を抑制する。一般の木造住宅に比べて火災に強く、火

災保険料が割安ですむ。大型化する最近の台風にも耐える性能も、実大モデルで実証済み。千葉県に大きな被害をもたらした2019年の台風19号の最大瞬間風速57・5メートルを超える88メートルの耐風圧性能を備える。防水性能は、1時間当たり240ミリの雨量に相当する水を段階的に与え、さらに毎秒最大60メートルの風圧を発生させる試験で、高い防水性能も確認した。

ライフラインが遮断された非常時にも、エネルギーの自給自足や充実した備蓄スペースなど、家族の命を守るシェルターとして、その防災力を発揮。復旧までの一定期間生活を続けられる機能を備えるとともに、より快適で安全な日々の暮らしも提供する。

具体的には、太陽光発電（PV）システムや壁掛け型蓄電盤を備え、災害時の停電に対し必要な電力を確保。平常時は毎日の必要な電気を自家発電で賄い、地球に家計にやさしい暮らしを実現できる。

さらに、断水時の生活用水のための雨水タンク、屋根下の空間の有効活用、大量の備蓄品が収納可能な小屋裏収納も設定している。

HEBEL HAUS

ALL for LONGLIFE

自分らしい生き方に、
住まいを合わせていく時代へ。

価値観やライフスタイルが多様化するいま、
1つの住まいを家族代々住み続ける人もいれば、
マンションから賃貸住宅へ、
戸建住宅からマンションへ、
ライフステージや目的に応じて住み替える人も
いらっやいます。
住まいに縛られることなく自分らしい生き方に、
住まいを合わせていく。
そんな自由で豊かな暮らしを実現するために、
わたしたちは、家族のこと、
資産のこと、社会のこと
あらゆることを考え抜き、最適な答を
ご提案いたします。



各種資料のご請求・お問い合わせ先
下記電話番号またはメールアドレス宛にお問い合わせください。
TEL: **03-6899-3010** (土日祝除く9:00~18:00)
FAX: **03-6899-3400**
✉ j-koho@om.asahi-kasei.co.jp

〒101-8101 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング7階
旭化成ホームズ株式会社 広報室

※当社個人情報お取り扱いに関しては下記サイトを
ご覧ください。
https://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/privacy.html/?link_id=AH_footer28

住宅が欲しい

ロングライフ思想を掲げて半世紀。
良質で長持ちする注文住宅や既存住宅をご提供いたします。



注文住宅

ハーベルハウス

都市型住宅の先駆者。理想のマイホームを
フルオーダーメイドで建てるができます。



既存住宅

ストックハーベルハウス

暮らしの安心と快適を実現する
もうひとつの住まいの選択肢です。

部屋を借りたい

高い居住性能と充実した設備を兼ね備えた賃貸物件をご提供。
暮らしにぴったりなお部屋がきっと見つかります。



お部屋探し

ハーベルメゾン

様々なライフスタイルにあわせた物件を
取り揃えています。



お部屋探し(シニア向け)

ハーベルVillage^{ヴィレッジ}

介護施設ではなく、自立して暮らせる
シニア向けの賃貸住宅をお探し頂けます。

土地を活用したい

相続税対策や資産形成など、目的にあわせて
最適な土地活用プランをご提案させていただきます。



賃貸住宅

ハーベルメゾン

高い防災力をもつ安全安心な
賃貸住宅経営。
狭小の住宅地から大規模な
敷地まで対応可能です。



賃貸住宅 (シニア向け)

ハーベルVillage^{ヴィレッジ}

超高齢社会のニーズを捉えた
賃貸住宅経営。
土地活用をととして社会に
貢献できます。



中高層ビルディング

ハーベルビルズ

最大8階建ての中高層
ビルディングの賃貸経営。
賃貸マンション・店舗・
オフィスなどへ展開可能です。

災害に強く安全で快適な住まい提供

積水グリーンファーストゼロ



れた日中は最も大きな電力が確保できる太陽電池（PV）、ガスと水道の供給があれば、雨天時や夜間でも発電可能な燃料電池がベースとなる。

これに、PVや燃料電池で発電した余剰電力を備えておくことで蓄電池との3電池連携システムがあれば、停電が複数日にわたって続いても、平常に近い

11年の東日本大震災では迅速に対策本部を設置、発生3時間後には支援物資の輸送を開始。また、19年の千葉県南部を襲った台風15号では発生から3日程度で被災エリアの全オーナー（建築主）宅の被害状況の確認と被災した300棟の初期対応を完了させた。

同社では、2004年に蓄電池を初めて住宅に標準搭載し、災害時の自立生活を目指した「省エネ・防災住宅」を発売。11年には太陽電池・燃料電池・蓄電池の「3電池」を日本で初めて連携制御した「グリーンファーストハイブリッド」を商品化した。

以降、早期から住まいのレジリエンス性強化に取り組み、グリーンファーストゼロでもこれを深化させながら推進している。

ZEHは、温暖化防止効果のほかに災害時のレジリエンス性の高さから注目されている。同社の新築戸建住宅におけるZEH比率は90%（21年4月～10月）。また、13年から供給を開始したグリーンファーストゼロ（ZEH）の累積供給棟数は6万9163棟（22年3月末）となっている。

防災ゼロエネハウス実現 被災後の生活継続可能

積水ハウスが推進する『グリーンファーストゼロ』は、住まいそのものの強靱さに加え、同社グループの災害時サポート体制でレジリエンス性を高めた防災ゼロエネハウスの考え方に基づく。

同社では、この防災ゼロエネハウスの普及により、気候変動に伴う激甚災害への備えと地球温暖化防止に貢献する住まいづくりを推進し、ESG経営のリーディングカンパニーを目指していく。

同社の防災ゼロエネハウスとは、地震や台風をはじめとするさまざまな自然災害に対して、まず建物自体が災害に耐えられる頑丈さを備え、かつ被災後にも生活空間、水・食料・エネルギーを確保でき、生活が続けられる住まい。

エネルギー確保に関してはZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の構成設備が役立つ。晴

パニーを目指す。い暮らしが行える。いざ災害が起きた際には、建物自体のレジリエンス性によって、まずはオーナーの安全を確保。その上で、オリジナル別データ管理システム「災害訪問アプリ」や物流ネットワークを駆使して、安否や被災の状況を把握する。その上で、全国の工場を地域復旧支援の拠点として、居住者の暮らしを復旧させるための体制を整える。

飲料水と生活用水常備 ライフライン寸断対応



大和ハウス工業 災害に備える家

時は、日常の水の使用で新鮮な水道水と入れ替わるため、常に衛生的な状態が保てる。

3電池（PV、エネファーム、蓄電池）連携システムでは、連携させるための「切換盤」を開発。これにより、停電時にエネファームが発電した電力を蓄電池に貯めることができ、長期的な停電にも備えられる。停電が長引く場合は、快晴時にPVで発電した電気を使い、

雨天的場合は天候に左右されずに発電可能なエネファームを使用する。蓄電池は、グループのエリパワー社製のリチウムイオンタイプで、大容量・大出力で、安定した電力を供給。停電時もテレビや照明、扇風機の使用に加え、電気錠が使用できないことによる防犯上の不安も解消する。

このシステムは通常時の光熱費削減にも寄与。さらに、最近の水害規模の大きさに配慮し、蓄電池とエネファームは床下浸水で水浸ししないよう基礎を高くして設置する。

独自の耐力壁「キューレック」は、独自の「Σ型デバイス」が、上下になやかに動くことで地震エネルギーを吸収する仕組み。キューレックを採用した「ジューヴォシグマS+（エスプラス）」仕様を装備することで、従来と比べて、巨大地震時の建物の揺れを最大2分の1に抑え、建物の内外装の損傷の低減が図れる。

夜間の停電時に家族が集まれるように、リビングなどの主な居室に電力と暖房を供給。テレビで災害情報を得ながら家族が寄り添って就寝できる「musubiコーナー」も提案している。

Good NeighborWood

森と人は、良き隣人になろう。

もっと高く、もっと速く。

何と競っていたのだろう。

世界が成長することは、二酸化炭素を出すことでした。

ここから変わる。

木から離れた人間は、もう一度木に戻る。

二酸化炭素を減らすには、木の力が本当に必要だから。

森と良き隣人になろう。

木の力と人の力で、互いに長く生きてみよう。

それは今あなたが思う幸せに、

案外近いのではないだろうか。

木と生きる幸福



住友林業

災害に強く安全で快適な住まい提供

ミサワホーム センチュリー蔵のある家 ZEHア ドバンス



それぞれが仕事や勉強、趣味などさまざまな活動で自宅で行えるようなプランを提案している。

今回のZEHアドバンスは、

同社木質系工業化住宅「センチュリー蔵のある家」の最上位ブランドとなる。

フレキシブルに使える空間構成や健康的な空気環境、安全安心な防災・減災デザインを採用した。

スマートECオフホルムは、異種勾配の屋根形状や大空間収納「蔵」の配置

LCCMやZEH主眼 自由空間と安全安心も

ミサワホームの「センチュリー蔵のある家ZEHアドバンス」は、斜線制限などの敷地条件に対応しながら大容量の太陽光発電システムを搭載できる設計「スマートEC

を工夫するフレキシブルな設計。大容量な太陽光発電システムの搭載と斜線制限の両方への対応が可能になった。また、IoTライフサービス「LinkGates（リンクゲイ

ツ」が蓄電池や給湯機を自動制御。過去の使用電力量や太陽光の発電量などのHEMSデータ、気象予報情報からAIが翌日の発電量や使用電力量、余剰電力量を予測し最適利用を可能にする。

住宅業界初の邸別一定風量制御技術を搭載したフロアセントラル換気システムA7を標準搭載。熱交換を行うつつ、エネルギーロスの少ない最適な換気量での運転が行える。ダクト式エアコンと高効率エアコン、小空間用空調などをIoTで一括制御する新開発の全館空調システム「コモンズエア」も採用した。

仕事や勉強、趣味など部屋の使い方が多用途になったことに対応。これまで家族が集まる場所だったLDKを「フレックスコモンズ」と「コミュニケーションハブ+ダイニングラウンジ」に分割した。

その上で、2つの空間を透過性のある建具で仕切るとともに、隣接する個室の在宅ワークスペース「ミニラボ」との組み合わせで、家族のつながりを育みながら一人の時間も大切にできる住まいを提案している。

三井ホームの「IZM」の断熱性・省エネ性能を備えた独自のプレミアム環境意識の高まりや多様なニーズに対応し、「脱炭素社会」のモダンデザインをテーマにした。ZEH水準

地からの視線を遮る。素材には「日本六古窯」の信楽焼の窯で焼いたオリジナルのデザインタイルで、焼きムラの自然な風合いがある素材感と、目地を通したデザインが特徴だ。

ZEH水準断熱省エネ 半戶外空間「ラナイ」も



三井ホーム IZM（イズム）

る深い軒がありながら屋根の存在を際立たせないシンブルなファサードが特徴だ。これにより、高い発電効率を維持しつつ屋根の存在を弱め、太陽光発電パネルが見えないようにしたいとのニーズに応えている。

シンボリックなエクステリア外観となるのが「プライバシーウォール」で、意匠上アクセントとしての機能に加え隣

さらに、外からの視線を遮るプライバシーウォールを生かし、家の中と外がボーダーレスにつながる半戶外「ラナイ」を提案。屋外の快適さを気軽に楽しめる「ダイニングラナイ」、リビングとつながる開放的な「オーブンラナイ」、ONとOFFを切り替えながら屋外ワークも可能な「スカイラナイ」も用意した。

一人の時間も家族との時間も大切にしつつ、ライフスタイルに合わせた多彩な暮らしが可能となっている。

在宅ワークが日常化する中、気分転換しつつ生産性を高められるように、さまざまな場所にワークスペースを点在させた。2階にはスロープシンキングで明るく開放的な「ワークスタジオ」を設置。集中作業やリモート会議などに適した個室空間とした。ラナイやリフレッシュスタジオを隣接させることで、気持ち切り替えながら快適に仕事に取り組める。

家は、生きる場所へ。

伸びやかな高い天井が叶えてくれたのは、
かつてない開放感。
軒先へとつながる水平ラインの先には青空が広がり、
天井いっぱいの大きな窓から入る心地よい木漏れ日と涼やかな風が、
自然との一体感を愉しませてくれる。
床や天井、家具による自然素材が織りなす風合いは、
穏やかな居心地をつくり出し、
上質なくつろぎの時間を与えてくれる。

私たちは、住まう人が思い描く理想の「生き方」に寄り添い、
その「生き方」をデザイン。
住まいを通して、
日々の暮らしを豊かに彩ることを大切にしています。

LiveStyle Design

リブスタイルデザインの大和ハウス。



※商品改良のため、仕様・デザインを予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。



上質な存在感を放つ
美の私邸。

MARE
WOOD RESIDENCE
[RC造×木造]



ゆとりある天井高で
地震にも強い。

xevoΣ
[軽量鉄骨造]



日本の伝統建築の
考え方を受け継ぐ。

xevo GranWood
[木造]



快適なトシナカ生活を叶え
併用住宅にも。

skye
[重量鉄骨造]

あなたの理想の「生き方」を
私たちにお聞かせください。

あなたや家族の生き方に寄り添って、
私たちが家づくりをご提案いたします。

※お近くの展示場については、ホームページにてご確認ください。



Daiwa House
Group

共に創る。共に生きる。

— 大和ハウスの住宅事業は、グループの総合力であなたをサポートします —



Daiwa House
大和ハウスグループ
大和ハウス工業



Daiwa Real Estate
大和ハウスグループ
大和ハウスリアルエステート



Daiwa Reform
大和ハウスグループ
大和ハウスリフォーム



Daiwa Lantec
大和ハウスグループ
大和ランテック

DesignArc

Daiwa House Group
デザインアーク